

品質保証書・取扱説明書

CYBEAT
 5BAR 両局電波時計
 取扱説明書

注意

- ・正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読み下さい。
- ・お読みになった後は、必要となったときいつでもご覧になれるよう必ず保管して下さい。
- ・注意事項もよくお読み下さい。

仕様

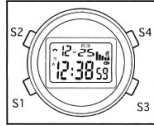
- 受信周波数 40kHz(福島局)/60kHz(九州局)両局受信/受信周波数表示 ※日本国内仕様モデル
- クォーツ精度 月差±30秒 ■使用温度範囲 5°C ~ 35°C ■5気圧防水

機能

- 独立行政法人情報通信研究機構の標準時刻電波を受信して自動的に時間を修正する機能
- 電波受信レベル表示 ■カレンダー機能(西暦、時刻、日付、曜日)
- クロノグラフ機能(1/100秒ストップウォッチ) ■アラーム機能 ■ELバックライト

時計の見方

- ・時刻表示では時/分/秒/日付/曜日が表示されています。
- ・S1を押すとアラームモードになります。
- ・S1を2回押すとクロノグラフ(ストップウォッチ)モードになります。
- ・時刻表示のときS3を押すと西暦が表示されます。(約2秒後に時刻表示にもどります)
- ・時刻表示のときS1を約3秒押しして12時間表示・24時間表示を選びます。

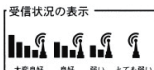
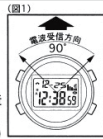


ELライト

- ・S2を押すとELライトが光ります。ELライトは電気を多量に消耗します。必要最小限のご使用をお薦めします。

時計の合わせ方 時刻/日付の設定

- 受信について (図1)
 時計を水平に置き、電波送信所のある方向(40kHzは福島県、60kHzは福岡・佐賀県境)に向け90°度の範囲内にゆっくり回して受信状態の良い位置を探します。
- 次の様な状況では受信が難しい場合があります
 ・車、電車、飛行機等の乗り物の中・磁気を発する家電製品の付近
 ・電波障害の起きやすい場所
 (建築現場、高圧電線、空港/鉄道/交通量の多い道路及びその周辺)
 ・鉄筋/鉄骨の建物の中、およびその周辺
- 受信の一時停止機能
 自動受信又は強制受信が作動中にELライトやアラームを使用された場合は、受信機能が一時停止します。それらの機能が終了した約10秒後より再受信が始まります。
 *受信機能が停止している約10秒間もマークは点滅しています。



※受信局自動選択機能…前回自動受信で受信に成功した周波数を自動で優先して受信動作します。電波受信の状況がとても弱い場合、約144秒後に受信を自動で中止します。

自動受信

自動受信は1日1回午前3時00分30秒に自動受信機能が働きます。マークが点滅し始めます。1局あたり約5分動作します。受信出来ない時自動で別局を受信します。(受信範囲:発信基地からおおよそ1,000km以内)

強制受信

S4を3秒間押しすると強制受信が開始されます。受信開始と同時にマークが点滅し始めます。1局あたり約5分動作します。受信出来ない時自動で別局を受信します。

手動設定

電波障害等により自動受信に失敗した時や、強制受信中にS4を3秒間押しして受信を中止した時(マーク/マークの表示が無い場合)は、手動による時刻/日付の設定を行うことができます。下記の手順に従い設定を行って下さい。

- ・時刻表示のときにS3を3秒間押しします。秒が点滅し、手動設定モードに入ります。
- ・S3を押し、調整したい時間の単位や月日を点滅させます。(点滅表示は、秒/分/時/年/月/日と切り替わり、元通り秒表示の点滅に戻ります)
- ・S4を押し、点滅させている場所の調整をします。
- ・S1を押し、時間設定を終了します。(点滅が無くなり通常表示に戻ります)

マーク/マークが表示されている場合は、手動設定を行う前に次の手順に従って表示を消して下さい。

- ・S4を3秒間押し、強制受信を開始させて下さい。受信開始と同時にマークが点滅し始めます。
- ・さらにS4を3秒間押し続けるとマークが消えます。上記の手動設定に従って時刻を合わせて下さい。

・時刻電波は電波塔の保守点検などにより発信が停止される場合があります。
 ・独立行政法人情報通信研究機構のホームページでご確認下さい。 日本標準時グループ <http://jijy.nict.go.jp/>

アラーム

- アラーム時刻の設定 ※アラーム音は約15秒間鳴ります。
 S1を1回押ししてアラームモードにします。 S3を押すと分が点滅し、S4で分を合わせます。S3を押すとアラーム時刻の時が点滅し、S4で時を合わせます。S3またはS1でアラーム時刻の設定を終了します。(マークが表示されアラームがセットされます。S1を2回押しすると時刻表示にもどります。)
- アラームの設定
 アラーム時刻設定表示のときS4を押すとアラームのON/OFF(設定/解除)ができます。アラームが設定されているときはマークが表示されます。
- アラーム音の停止
 どのボタンを押してもアラーム音は停止します。

クロノグラフモードについて

- クロノグラフモードにはストップウォッチ機能とスプリットタイム機能があります。
- ストップウォッチ操作
 S1を2回押しするとストップウォッチ機能になりS4でスタート/ストップができます。計測を終了した状態でS3を押すとリセットされます。S1を押すと時刻表示にもどります。
 - スプリットタイム操作
 ストップウォッチ計測中にS3を押ししてスプリットタイム(途中経過時間)を表示します。(LAPマーク表示します)その間もストップウォッチは計測されています。
 S3を押すと計測中のストップウォッチが表示されます。(LAPマーク表示消えます)
 S4で計測を終了しS3を押すとリセットされます。S1を押すと時刻表示にもどります。

【電池交換について】

この時計はリチウム電池(CR1620等)を使用しております。交換の際は同等規格のものをご使用下さい。電池寿命は新品電池を組み込み後、通常使用で約1.5年です。(通常使用例 ELライトを1日1回/アラーム1日1回・自動受信を1日1回/強制受信を1日1回)

各種の機能を多用すると電気を必要以上に消耗する事となります。その場合は、規格の電池寿命に満たない内に容量が切れる場合があります

- ※この時計の内蔵電池は、工場出荷時に機械、性能を検査するためのモニター電池です。モニター電池は新品電池を使用しておりますが、お買上げ後、表示の電池寿命に満たないうちに電池容量が切れることがあります。なお、保証期間内であっても、電池交換は有料となります。
- ※裏ふたをご自分で開けると故障の原因となります。電池交換はお近くの時計店または当社サービスセンターで行うことをお勧めします。
- ※受信時に多量の電池を消耗しますので、保管の際は電波受信状況の良い場所で保管して下さい。

【時刻設定のご注意】

この時計は日本標準時に対して±1時間の時差を設定することができます。海外でご使用中も日本標準時刻電波の自動受信機能は作動します。日本に近い地域では日本標準時/時刻電波の受信に成功することがあります。海外で手動設定により時計の時刻を現地時間に合わせご使用になっているときでも、日本標準時/時刻電波に成功すると日本時間に修正されてしまいます。このような場合は時差を設定することによって、海外でご使用中に時刻がずれることが防げます。

■時差設定

時差設定方法: マークが表示されているときS3ボタンを約4秒押しするとマークが点滅します。S4で合わせて下さい。

日本標準時刻を表示している時はマークが表示されます。時差が+1時間の場合は、+1hを表示させて下さい。時差が-1時間の場合は、-1hを表示させて下さい。



■サマータイム設定

マークが表示されているときS3ボタンを約4秒間押ししてマークを点滅させます。もう一度S3ボタンを押すとマークと"ON"又は"OF"が表示されます。

2006年10月現在、日本ではサマータイムは施行されていません。